

第6回 矢上川地下調節池施工技術検討会 議事要旨

1. 日時 令和7年3月13日（木） 14：00～15：50

2. 出席者

小山幸則委員長、砂金伸治委員、岩波基委員、菊本統委員、真下英人委員

3. 議事概要

- 事務局より「これまでの検討状況と今後の進め方」、「安全・安心な施工に関する取組」について説明した。
- 各説明後の質疑応答において、委員より以下の趣旨の意見があった。
 - ・ 切羽土圧の設定にあたり、掘進停止時に計測される土圧をよく把握するのがよい。
 - ・ 土圧計が複数あるなどデータが多く、また変動もするため、掘進中は慌ただしくなるが、落ち着いて対応できるようにしておくのがよい。
 - ・ 急曲線部では、偏圧が作用しセグメントが変形しやすいため、特に注意して施工するのがよい。
 - ・ 管理値の設定について、管理値を超えたとしても異常ではないケースもあるため、注意したほうがよい。
 - ・ 管理値を超えた場合には、地上の変状について観測頻度を高めたほうがよい。
 - ・ 計測している土砂の比重が大幅に変わった場合は、土の状態が変わったのか、それとも別の要因なのかを確認したほうがよい。
 - ・ 昼夜作業の片番終了後は毎回測量でセグメントの位置を確認したほうがよい。
 - ・ 弾塑性解析は必要ないが、どの程度の沈下量や変位角までなら問題ないか確認するとよい。
 - ・ 許容値を明確に決めるのは難しく、施工時に限界となる数値を頭に入れておくとうい。